

矢車を使用した爽竹布黒色染色と衣装制作に関する研究

荒井 夏雅里

1. 目的 2020年の東京五輪を前に、日本を訪れる外国人観光客は年々増加しており、日本の伝統文化が世界から目を向けられている。ファッションの世界でも、和を感じさせるデザインが色んな形で世に出ている。これらを参考に和を取り入れた環境に優しい衣装制作を研究する

矢車とは：
植物染料の泥染の一種である、五日市の泥染

2. 爽竹とは (株) 東レ (PET75%レーヨン25%)

●和服の襦袢に使用されている

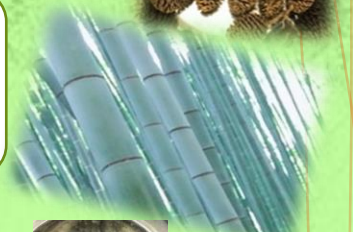
レーヨンの原料：成長の速い竹⇒環境調和型快適性素材

よこ紹たて紹



3. 染色工程

1濃染前処理→2矢車から色素抽出→3染色→4媒染→5媒染ソーピング
1~3浴比1:50、80℃、30分
4浴比1:20、14℃、30分
5浴比1:20、65℃、10分



4. 染色性

よこ紹たて紹



1回目
2回目
3回目
4回目
5回目



日本の伝統和色で黒色の種類

よこ紹に比べてたて紹の方が濃く染まる。
5回のくり返し染色で藍墨茶に近い色になったため、2回目以降は染色工程の3~5の工程を行い5回の染色をする。



染色後
1回目



10分媒染後
(1回目)

5. 堅ろう性

JISに基づき洗濯、汗、摩擦試験で堅ろう度試験を行った。堅ろう性は、たて紹に比べてよこ紹の方が高かった。

6. まとめ

竹を原料とした襦袢の生地に藍墨茶染めを行い、背面にはなでしこ結びを取り入れ、和と環境調和を融合したドレスが提案できた。
今後、堅ろう性の課題をクリアし、より一層環境に優しい衣装制作ができると考える。

